

ドラッカーの小さな学校 開講！ 2020 年度（受講者報告）

2021年2月20日、「歴史的転換点にある日本とマネジメントの課題」と題して、「ドラッカーの小さな学校」がZoomオンラインで開催された。昨年度（2019年度）は新型コロナウイルス感染拡大により中止となったため、「小さな学校」は2年ぶり5回目の開催となった。これまで東京開催であったため受講できなかったが、今回オンライン開催となり初めて参加することができた。

最初の講演は、「思想としてのマネジメントとその源流」と題して、井坂康志理事よりご講演いただいた。ドラッカーの思想や知的な体系は、歴史との対話の中でどう紡ぎあげてきたか、根本的な問題意識はどこから来たのか。ドラッカーの出生から青年前期の生育環境の視点からご説明があった。なぜ、ドラッカーからノウハウやハウツー以上のものを得ることができるのか、その理由が井坂理事のお話より理解することができた。

2つ目の講演は、「マネジメントと市民性は『学習』によって創造されるか？ ～マネジメントはサイエンスではないのか？～」と題して、阪井和男代表理事よりご講演いただいた。「マネジメントの創造」と「市民性の創造」の2つが互いに密接に関わっており、2つの創造性を統合するのが「学習」である、などのご説明があった。「マネジメントはサイエンスではない」というドラッカーの言葉は、阪井代表理事が長年頭を悩ませているというお話も印象的だった。

3つ目の講演は、「転換点にある日本とマネジメント」と題して、2001年に収録されたドラッカーのインタビューVTRを視聴後、藤島秀記理事よりご講演いただいた。ドラッカーのインタビューでは、マネジメント・スコアカード、収益性、知識労働者の生産性、社会のニーズなどに関する言及が興味深かった。藤島理事からは、現在は20世紀の工業化時代からDXと知識の時代に移行しようとする歴史的転換点である。新型コロナにより全く違う世の中が変わるが、マネジメントの本質は変わらない、マネジメントをどう活用するか、イノベーションにどう取り組むか、藤島理事

からの熱いメッセージが心に響いた。

4つ目の講演は、「個人の強みを活かし、組織と社会づくりに貢献するMSC（マネジメント・スコアカード）」と題して、森岡謙仁理事よりご講演いただいた。森岡理事のMSC体系図により、自由で機能する社会、共通善・完全性・倫理、マネジメントの3つの役割、貢献など、ドラッカーのマネジメント思想と、組織と現代社会との関係性を俯瞰することができる。ニューノーマル時代の私たちの組織・社会に求められるマネジメントが見えてくる。

カリキュラムの最後は、森岡理事が用意されたケーススタディに4つのグループに分かれて取り組んだ。コロナ禍の経営難に苦しむ地域の焼肉店を事例として、ドラッカーのMSC（事業の定義、5つの質問、8つの重点領域目標）の視点から、経営改善のアイデアを出し合った。デジタル技術を活用するイノベーションのアイデアも数多くあったのが印象的だった。ナビゲーターの皆様のおかげもあり、MSCの視点から思考することで、建設的なアイデアが活発に出るなど、MSCを実践で思考することを経験した。実際の組織においても大いに活用できると実感した。

本講座は、ドラッカーのマネジメント思想とMSCについて理解が深まる、ほかでは経験することのできない貴重なカリキュラムである。ドラッカー「マネジメント」の理解・実践を通して、よりよい組織・社会に向けた道標を見つけ、一個人としても努力し貢献していきたいと、あらためて感じる機会となった。

本講座を企画・運営いただいた森岡理事、ご講演いただいた阪井代表理事、井坂理事、藤島理事、Zoom運営をご担当された高橋様、グループワーク・ナビゲーター役の行本様・伊藤様・佐藤様・宮本様など、運営に携われた皆様に深く感謝を申し上げます。
(菅原勇人)